

第4回とちぎ夢大地応援団活動報告(令和3年11月27日実施)

茂木町 小深地区「棚田の管理作業」

茂木町小深地区で令和3(2021)年度第4回とちぎ夢大地応援団活動を行いました。秋空深まる中、清々しい朝に身が引き締まる思いで活動に当たりました。

今回の参加者は、応援団員15名、関係者8名の計23名でした。

当日は、休耕田を以前の田んぼに戻しながら在来種米の保全に奮闘する早坂の家の活動をサポートしました。

作業内容としては、景観を一層美しくするため、田んぼをつなぐ斜面へ彼岸花の植栽や、先の大雨で崩れてしまった畦の補修作業を行いました。

早坂の家の前に広がる棚田は、栃木県の棚田100選にも選ばれた大変美しいところで、訪れる者を圧倒します。オーナーである矢野氏は、実家を改装し、田植体験や収穫体験等、多くの人々を受け入れ、ツーリズム活動を指導しています。

また、自らの幼少時代に体験した、昔ながらの田舎生活を後生へ伝えたいと尽力されています。応援団との作業中も、貴重な知識で、水棲生物の解説や鳥の紹介、植物の観察等、目に付く物は何でも教材にして、参加した応援団を飽きさせず、この地域をととても愛しているんだなと感じさせられる一日となりました。

昼食は、地元産の旬の恵みを生かしたとてもおいしいお弁当に参加した団員は嬉しい舌鼓を打ちました。



▲オーナーである矢野氏の実家を改装した早坂の家の前で



はじめに、早坂の家のオーナーである矢野氏から、直接お話を伺いました。自分の幼少期の生活振りを後生へ残すために田んぼのお手入れや家屋の改装など、ボランティアのサポートを受け、着々と構想を実現する様子が紹介されました。



このように田んぼと田んぼの間の斜面に彼岸花の苗を植え付けて行きました。足場が悪く、土中には雑草の根が張り、中々シャベルで土を起こせない中、黙々と作業を進めていきました。北風が吹く中、心地よい汗がこぼれ落ちます。



崩れてしまった畦に杭を打ち込み、泥で固めていきます。このように田んぼの管理には思わぬ作業が伴います。参加した団員からは、また一つ、我々がサポートすることで、とちぎの景観が守られて行くことが大変励みになる。これからも活動を続けていくと力強い言葉をいただきました。



最後は、お楽しみの昼食のお時間です。山で採れた栗と目の前の田んぼで採れたご飯に、葉物野菜のお味噌汁をいただきました。また、お土産に裏のイチョウの恵みである“ぎんなん”をいただきました。昼食後には、この辺りで撮影した四季の写真を紹介していただき里山を満喫しました。